

大阪開催

諸領域における心理支援の知識と課題

一般財団法人日本心理研修センター主催

一般財団法人日本心理研修センターは本年度設立 3 年目となります。心理職の資質の向上及び協働させていただく諸職種の皆さまとの連携を視野に、昨年に引き続き大阪で心理支援の知識と課題をテーマに研修会を開催いたします。

【開催日】 平成 27 年 11 月 8 日 (日) 9:30～16:30 (9:00 開場予定)

【会場】 大阪人間科学大学庄屋学舎

〒566-0012 大阪府摂津市庄屋 1-12-13、JR 京都線「岸辺」から徒歩 10 分、阪急京都線「正雀」から徒歩 5 分

【定員】 合計 約 500 名

【参加費】 1 講座 6,000 円

【参加資格】 臨床心理士、臨床発達心理士、学校心理士、特別支援教育士、他の心理系学会認定資格者、心理職実務者、守秘義務のある専門職、心理学関連大学院生

【ポイントについて】 臨床心理士・臨床発達心理士・特別支援教育士：ポイントあり。学校心理士：申請予定。

【申し込み予約】 一般財団法人日本心理研修センターホームページより (<http://shinri-kenshu.jp/>)

【共催】 一般社団法人日本臨床心理士会、日本臨床発達心理士会、一般社団法人日本学校心理士認定運営機構、日本学校心理士会、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会

【後援】 日本行動療法学会、日本発達心理学会、日本人間性心理学会、一般社団法人日本心理臨床学会、一般社団法人東京臨床心理士会、一般社団法人日本発達障害ネットワーク (予定)

<11月8日(日)>

●プログラム第1)「自閉症スペクトラム障害への発達論的アプローチの新動向 (6)

～心の理論の発達とその障害・支援～

～この研修会は、昨年度の秋季研修会で中止となったため、改めて開催するものです～

9:30-12:15 「心の理論」の発達とその意義 子安 増生(京都大学大学院 教育学研究科)

13:15-16:00 自閉症児における「心の理論」の障害と支援の課題

別府 哲(岐阜大学教育学部 学校教育講座(心理学))

16:00-16:30 ディスカッション「心の理論」研究と発達支援の課題 (講師+参加者)

●プログラム第2)「自律訓練法の基礎と実際」

～この研修会は、昨年度の秋季研修会で中止となったため、改めて開催するものです～

10:00-11:30 セッション1：自律訓練法概説

12:30-14:00 セッション2：自律訓練法の体験

14:00-15:30 セッション3：自律訓練法の相互実習

15:30-16:00 セッション4：質疑応答

笠井 仁(静岡大学)

●プログラム第3)「ネットいじめ・ネット問題の理解と対処：国際的な共同と国内の実践から学ぶ」

10:00-12:00 いじめ・ネットいじめ・ネット問題の経緯と調査研究と対策

13:00-14:00 ネット問題対応の原則：欧州のキッズ・オンラインに学ぶ

14:10-15:00 学校・校種を超えた共同実践：日本国内の実践に学ぶ

15:10-16:00 ネット問題の今後と国際的共同の必要性

戸田 有一
(大阪教育大学)

●プログラム第4)「不登校・いじめとスクールカウンセリング」

10:00-12:30 不登校といじめの理解と対応、その変遷と現在

13:00-15:45 スクールカウンセラーにできること

16:00-16:30 質疑とまとめ

本間 友巳(京都教育大学)

＜企画趣旨＞

●プログラム第1)「自閉症児への発達論的アプローチの新動向(5)―心の理論の発達とその障害・支援―」

自閉症児への発達論的アプローチの新動向の第2回目の研修である。1980年代から、子どもが他者の認識や感情をどのように理解するようになるかという、「心の理論」研究が世界的に活発に行われ、社会的認知、コミュニケーション、言語発達などの研究に重要な影響を与えており、子どもの理解の上には、不可欠な事柄と考えられるようになってきた。また、自閉症児における「心の理論」の障害は、自閉症児の本質的な障害に関わる事柄として、臨床的にも注目されるようになってきている。本研修では、まず子安講師が「心の理論」の発達のメカニズムと、子どもの理解に際し、「心の理論」という観点をもつことの意義について述べる。その後、別府講師が、自閉症児における「心の理論」の障害がどのようなメカニズムによって生じているのか、また、「心の理論」という観点をもった教育・臨床的支援の方向性について述べる。最後に、講師と参加者によって討議を行い、今後の研究および発達支援の課題を共有する。

●プログラム第2)「自律訓練法の基礎と実際」

自律訓練法は心身の自己調整法として、医療、教育、産業、スポーツ等の領域で広く用いられている。また、心理臨床家自身にとってもストレス対処法として役立てていくことのできる方法である。

この研修では、自律訓練法の成立と展開について概説した上で、実習によって方法を確認しつつ、心理臨床での自律訓練法の適用の実際について学んでいきたい。

●プログラム第3)「ネットいじめ・ネット問題の理解と対処：国際的な共同と国内の実践から学ぶ」

世界各国のいじめ、そして、ネットいじめを含むネット問題は、親世代のあり方も含め、深刻化・複雑化している。そのなかで、いじめ等の理解のための国際的な共同研究がどのように行われているのかを紹介する。そのうえで、いじめ対策プログラムを国外に移植する研究者の平和創造への高い志などを紹介し、国際的な共同研究のあり方の今後の方向性を展望する。学校内でのいじめ対策をするだけでなく、ネット問題を含む人間関係のあり方の問題として、国際的な共同も広げつつ、国内の実践にも学び、対処していく必要がある。具体的には、以下のような内容である。

「いじめ・ネットいじめ・ネット問題の経緯と調査研究と対策」

「ネット問題対応の原則：欧州のキッズ・オンラインに学ぶ」

「学校・校種を超えた共同実践：日本国内の実践に学ぶ」

「ネット問題の今後と国際的共同の必要性」

●プログラム第4)「不登校・いじめとスクールカウンセリング」

日本の公立学校に初めてスクールカウンセラー(S C)が導入されたのは、今から20年前の1995年である。そして20年後の現在、約8千人のS Cが全国の公立学校約2万5千校で活動するまでに至っている。このS C導入の大きなきっかけとなったのは、当時とどまることのない不登校の増加(90年代に倍増。そして現在も減少していない)と、この前年にメディアで大きく取り上げられた中学生のいじめ関連自殺であった。この意味からも、不登校といじめは学校や社会がS Cに対応を期待し、またS C自身も積極的に取り組むべき重要なテーマなのである。

そこで、本講座ではこの不登校といじめを取り上げ、これらが学校や社会でこれまでどのように理解され対応されてきたのか、今日に至るまでの変遷をたどりながら、現在の理解や対応の到達点を示したい。そのうえで、これらの教育課題に対してS Cは何ができるのか、その可能性や限界を具体的な実践をもとに検討していきたい。

現在S Cとしての活動している方、また将来のS Cを目指している方、さらには広く教育問題やスクールカウンセリングに関心をもつ方たちの参加を期待したい。